

令和3年度第1回高砂市総合教育会議 会議録

令和3年7月29日(木)高砂市総合教育会議を高砂市役所分庁舎1階大会議室1において開会

出席委員

市長	都倉	達殊
教育長	衣笠	好一
委員	山名	克典
委員	吉田	美香
委員	神尾	信作
委員	吉屋	章

出席事務局職員

副市長	西村	裕
企画総務部長	前田	育司
企画総務部総務室長	荻野	章広
企画総務部総務室総務課長	樽家	正治

教育部長	永安	正彦
教育部教育推進室長	阿部	伸也
教育部学校教育室長	赤松	祐人
教育部学校教育室学校教育課長	矢野	仁之

健康こども部長	福原	裕子
健康こども部子育て支援室長	藤田	将太郎
健康こども部子育て支援室幼児保育課長	明定	美喜
健康こども部子育て支援室幼児保育課主幹	小笠原	利江
健康こども部子育て支援室幼児保育課副課長	太田	良子

傍聴者

3名

本日の議事

- (1) 就学前施設のあり方について
- (2) G I G Aスクール構想について
- (3) その他

○事務局

それでは、定刻となりましたので、これより令和3年度第1回高砂市総合教育会議を開会いたします。

まず最初に、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長

皆さん、こんにちは。暑い中、またお忙しい中、集まっていただきましてありがとうございます。

令和3年度の第1回目となります高砂市総合教育会議を開催させていただきましたところ、委員の皆様にはありがとうございます。

さて、総合教育会議は市長と教育委員の皆様方と公の場で教育行政について真剣に議論することで、高砂市の教育施策の方向性を共有し、ともに進めていくことのできる大事な会議と考えております。本日開催をお願いしましたところ集まっていただきまして、誠にありがとうございます。改めて、教育委員の皆様方には、平素から高砂市の教育行政、あるいは高砂市の子供の健やかな成長に御尽力を賜っておりまして、お礼を申し上げたいと思います。

本日の議題といたしまして、まず一つ目に、就学前施設のあり方についてということで議論させていただきたいと思います。もう一つは、GIGAスクール構想について、この今年度からタブレットを1人1台子供たちにお渡ししましてやっているところでございます。先般も教育長と一緒に荒井小学校のほうへ、GIGAスクール構想をどうやっているのかというので、私も見てまいりました。また、映像も交えて見ていただいた中で議論をさせていただきたいと思っております。

それでは、この2つのテーマについてこれから始めさせていただきますので、よろしく願い申し上げます。

以上でございます。

○事務局

ありがとうございました。

本年は4月に教育委員会委員が交代されておりますので、改めて本日の総合教育会議構成員を御紹介させていただきます。

まずは、先ほど御挨拶いただきました、都倉市長です。

○都倉達殊市長

都倉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、衣笠教育長です。

○衣笠好一教育長

衣笠です。よろしくお願いします。

○事務局

続きまして、教育委員会、山名委員です。

○山名克典教育委員

山名です。よろしくお願いします。

○事務局

続きまして、吉田委員です。

○吉田美香教育委員

吉田です。よろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、神尾委員です。

○神尾信作教育委員

神尾です。よろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、本年4月より新たに教育委員会委員に就任されました、吉屋委員です。

○吉屋章教育委員

吉屋でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局

本日は、全ての構成員の皆様にご出席をいただいております。以上が本日の総合教育会議の構成員の皆様となります。

なお、事務局の出席者の紹介につきましては、出席者名簿をもって代えさせていただきます。

それでは、これから議事に入らせていただきます。本日は就学前施設のあり方について、GIGAスクール構想についてを議題として挙げさせていただきます。高砂市総合教育会議運営要領第4条の規定により、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長にお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

それでは、議事に従いまして進めてまいりたいと思います。

まず、一つ目の議事でございます。就学前施設のあり方についてを議題といたします。資料の説明をお願いいたします。

○藤田将太郎健康こども部子育て支援室長

健康こども部子育て支援室の藤田です。よろしくお願いいたします。

それでは、総合教育会議資料1ページをお願いします。

公立就学前教育・保育施設の今後の在り方について（案）でございます。こちらについて御説明いたします。

資料の2ページをお願いします。

全国的に人口減少、少子化の進行が社会問題となる中、高砂市におきましても急速な人口減少に伴い、就学前児童が減少していくことが見込まれます。また、昨今、女性の働き方など、保護者の就労形態の変化によりまして、利用者のニーズが変化してきております。このような状況を踏まえまして、子供や保護者にとってよりよい就学前施設の実現に向けて環境整備を行っていく必要がございます。そこで、公立施設の適正規模や配置など、こ

れらについてこれまでの経緯、経過、今後の児童数や地域の課題等を鑑みまして、今後の在り方について検討することとしまして、このたび方針案をまとめましたので、御報告いたします。

その下の資料に沿って説明いたします。

まず1、公立就学前施設のこれまでの経緯でございます。平成27年4月に子ども・子育て支援新制度が施行され、認定こども園の普及などにより子育てしやすい社会に向けた取組を進めております。本市におきましても、公立施設につきましては、これまで平成22年3月に策定いたしました「幼稚園・保育園の統廃合等の推進方向」に基づきまして、望ましい幼児教育を推進するため各地区の幼稚園、保育所の適正配置について検討し、統廃合や幼保一体化を進めてまいりました。新制度施行後は、「高砂市子ども・子育て・若者支援プラン」に基づきまして、行政8地区単位において荒井地区を除く7地区を幼稚園、保育園を一体化の上、幼保連携型認定こども園に移行してきました。荒井地区は、現在のところ令和7年度に荒井幼稚園を増築することにより、認定こども園に移行する方向性（案）としているところでございます。

次に、その下のところ、2の就学前児童の現状でございます。令和3年度のゼロ歳から5歳の就学前児童数は、市内全体で3,982人となっており、10年前の平成24年に比べまして956人減少しております。行政8地区で最も減少が多かった地区は、荒井地区の260人、次いで伊保地区の255人となっております。その他の地区におきましても、これらの地区と同様に大きく減少が見られております。唯一阿弥陀地区のみが45人と、ここ10年間で児童数が増加をしております。一方、各就学前施設の就園児童数につきましてはでございますが、3ページの上段のグラフにお示ししておりますように、令和3年4月現在2,834人、就園率は71.2%となっており、ここ数年で最も高い状況となっております。幼児教育・保育の無償化や認定こども園化が進んだことによりまして、3歳児以上の就園率は97.3%となっており、また、3歳未満児の就園率も高く、中でも2歳児の就園率も60.6%と非常に高くなっております。

次に、3ページの中ほどでございます。就学前施設の状況でございます。市内の認可就学前施設の状況は、公立では幼保連携型認定こども園7園、保育所1園、幼稚園1園、私立では幼保連携型認定こども園7園、保育所型認定こども園3園、保育所1園、合計20園において2,649人が利用しております。就園児童数の全体の約93.5%となっております。また、その他の就学前施設では、幼児教育・保育の無償化によりまして、認可外保育施設や市外施設などが実施する特色のある教育・保育内容を求め、利用する保護者も多くなってきております。

続きまして、4の今後の状況についてでございます。このように、これまでの状況や現在の状況から就学前児童数や就園児童数の状況を見ますと、就学前児童数はこれまで同様に引き続き各地区ともに大きく減少することが予想されます。就園児童数につきましても、本市は待機児童ゼロであり、就園率も非常に高く、特に3歳以上の1号2号認定児の就園率はいずれも97%を超えており、現在の全年齢児の就園率の71.2%から大きく増えることが考えられないことから、就園児童数はここ数年がピークとして、その後は減少することが予想されております。

次に、3ページの下段のところ、5の民間・公立園の役割についてでございます。市内の民間園では、就園児童数全体の約6割を担っておりまして、公立と連携した教育・保育を前提としながら、機動性や独自性を発揮し、多様な保育ニーズに柔軟に対応される保育サービスや特色のある教育・保育を行っております。一方、公立園では、就学前教育・保育水準を基準としたアンテナとしての役割を担い、幼児教育・保育や障害児保育を積極的にリードし、また、行政組織の一部として社会情勢の変化や災害、感染症発生時などの継続的な保育を実施するセーフティーネットの役割を担っております。

次に、4ページをお願いいたします。

6の高砂市公共施設全体最適化計画との整合性について御説明いたします。高砂市公共施設全体最適化計画の基本的な考え方の中で、市内の公立就学前施設は8地区を基礎とし、各地域に必要な施設を考えること、また将来人口を踏まえて統廃合、直営・民営化を2026年（令和8年度）までに計画することとなっております。公立就学前施設は、公共施設全体最適化計画の第I期計画期間である2026年までに半数程度にする方向性を示していることから、市内の全域を5地域に分割し、それぞれの地域に基幹となる公立施設を1園配置することで半数程度とする案で考えてございます。5地域については、最終ページの7ページ、参考資料におきまして、地域別の就学前教育・保育施設の配置図をお示ししております。このように、市内全域を東部・北部・中部・西部・南部の5つの地域に分割するものでございます。ただし、この地域の分割につきましては、施設の利用を地域ごとに制限するものではなく、施設の利用についてはこれまでどおり保護者の希望により市内全域において施設を利用するものでございます。

続きまして、7の公立就学前施設の基本的事項（案）でございます。公立就学前施設の今後の在り方についての方針を考えるに当たりまして、公立施設は本市の就学前教育・保育水準を基準としたアンテナとしての役割及び、様々な状況におきましても継続的保育を保障するセーフティーネットの役割を担うことを大前提といたします。また、公共施設全体最適化計画に基づき、施設保全の考え方や財政負担の軽減などを考慮し、下記の5つの事項を踏まえて5つの地域に区分し、その一つの地域に対して1公立施設となるよう、施設の方向性を検討するものといたします。なお、今後の児童数や社会状況等を踏まえまして、第I期最適化計画期間である2026年度において再検討を行うものといたします。その5つの事項としまして、その下のところ（1）待機児童を生じさせない。（2）施設老朽化による建て替え、大規模な補修工事の必要がある場合は優先的に検討を行う。（3）地域の利用者ニーズに応じた施設となるよう検討する。

（4）今後の児童数の推移や就園率など民間事業所も含め各地域の事情を十分に把握し検討する。（5）3・4・5歳児がそれぞれ複数年において公立認定こども園はおおむね15人、幼稚園はおおむね7人を下回る施設については統廃合を検討する。これら大きく5つの事項を踏まえまして、方向性を検討してまいります。

次に、5ページをお願いいたします。

8、地域別の方向性と課題でございます。市内全域を5つに分割しまして、各地域それぞれの今後の方向性と課題についてでございます。

①東部地域ですが、東部地域につきましては、ここ10年以内に施設の統廃合や民間移管を実施するなど、一定規模の施設整備ができているため、米田こども園を地域の基幹となる施設とします。

②北部地域につきましては、阿弥陀こども園が築50年ほどたち、園舎が老朽化が進んでいることから、早期建て替えが必要となっております。また、中筋こども園は就園児童数が少なく、将来的には今後の地域の就園児童数を鑑み、阿弥陀こども園との統廃合等を検討する必要があります。以上のことから、阿弥陀こども園を地域の基幹となる施設とするのが望ましいと考えております。

③中部地域、中部地域の伊保こども園は、統廃合の一定規模の施設を整理していることから、伊保こども園を地域の基幹としての施設といたします。

④西部地域の曾根こども園は、認定こども園に移行する際の園舎建築におきまして、地域住民に対し公共施設として建て替え等を行う旨の説明を行ってきており、北浜こども園につきましては、周辺に民間園がなく、時間外保育等の利用者ニーズに対応できていないことから、民間移管を視野に入れ検討する必要があります。以上のことから、曾根こども園を地域の基幹となる施設とするのが望ましいと考えております。

⑤南部地域でございます。高砂・荒井地区におきまして、これまで公立園の統廃合や民間移管を実施するなど一定規模の施設整理は行ってまいりました。荒井地区は、市内で唯一認定こども園化の実施ができていない地域となっており、早期に認定こども園化が実施できるよう検討が必要となっております。また、市内唯一となった荒井幼稚園の園児数が毎年減少を続けており、幼児教育に有効とされる適正規模の集団の維持が困難な状況が危惧されることから、幼稚園の3歳児の受入れなどについても検討する必要があると考えております。また、現在の状況から高砂・荒井地区のどちらの施設を基幹として維持するのか、早期の判断は困難であると考えております。

最後の6ページでございます。

行政8地区について、これまでの就学前教育・保育施設の統廃合、幼保一体化、認定こども園化、または民間移管についての経過を各地区ごとにお示しさせていただいております。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

#### ○都倉達殊市長

ありがとうございます。今、就学前施設のあり方につきまして説明がありましたが、私のほうからちょっと追加でお話をさせていただきます。

これら5つの地区別にそれぞれの課題がある中、今後、公共施設全体最適化計画に基づいて2036年までにこれらの方向性について進めていく中、早期に実施が必要な課題について本日の協議のテーマにもなりますが、3つのテーマがございます。後ろのほうにちょっとテーマ1、2、3ということでもっとまとめておりますが、まずテーマ第1につきまして、北部地域の阿弥陀こども園につきましては、早期建て替えの必要があり、来年度の予算化を検討しております。

次に、第2のテーマといたしまして、この阿弥陀こども園の整備を進めることとなると、従来計画をしておりました荒井地区の認定こども園化と実施時期が重なることとなりますので、財政面等により同時進行は難しくなっております。荒井地区の一部の保護者からは、早く認定こども園化を進めてほしいという要望も聞いており、認定こども園化の整備方法としまして、これまでの方向性である荒井幼稚園側に増設をして認定こども園化をするという案ではなく、荒井保育園に駐車場を設置するなどの軽微な改修を行い、認定こども園化することを検討しております。保育園側の認定こども園にする場合、令和4年度中に駐車場等を改修できれば、認定こども園は令和5年度に開始することができ、少しでも早くという保護者のニーズに応えることが可能となっております。

続いて最後に第3のテーマといたしまして、第2のテーマで御説明をさせていただきましたが、荒井保育園にて認定こども園化を進めることといたしますと、来年度以降予想される1号認定の就園児童数を保育所側だけで受入れするという事は保育園の施設規模的に対応できないため、幼稚園と一体化することは難しいと考えております。そのため、幼稚園は一定期間併設していく必要があること、また、公立施設で荒井地区だけが1号認定の3歳児の受入れができていないことから、1号認定の3歳児教育を幼稚園で始める必要があるということで、庁内会議である望ましい幼児教育推進委員会で協議させていただいたところでございます。5地区に分類をした今後の就学前施設の在り方についてという市の方針とともに、早急に解決すべき課題である3つのテーマにつきまして、教育委員の皆様には御意見をいただければと考えております。

よろしくお願いたします。

それでは、この就学前施設の在り方、後ろにお示しをしておりますテーマに沿って教育委員の皆様方から御意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いたします。

山名委員。

## ○山名克典教育委員

以前から、前の市長のときから4つにしようとかいいう形があったのですが、今回5つのほうにまとめようということになるのですが、実際にはその公立を5つにまとめる、8つを5つにまとめようという形、それはそれなりの児童、園児の数の減少を踏まえればいいとは思いますが、ただしその減らしていくに当たって、先ほど言いました北浜に関しましても、地区的な形として西部としたら曾根に来にくいといったとき、北浜を民営化するという形が案として出てきていましたけども、そうしたときに公立といわゆる民間との、結局その連携という形か、いわゆるこの高砂市内における就学前教育の在り方というか、教育の理念をどんなふうな形で持っていくか。ここで書いてありますように、いわゆる就学前教育の保育水準を基準にしたアンテナとしてその公立園を出して、それで民間は連携していろいろやっってくださいということになると思うのですが、結局市長自身が減らしていくけど、公立と私立の民間のそれなりの連携の在り方について、あるいは、今の現在の高砂市内における公立こども園、あるいは幼稚園と、それと私立、民間のこども園、許認可とか認可外のそれなりのところと、いろいろなこの就学前教育の中でのすごくレベル的なものというか、こういう非常に誤解を生まれるかも分かりませんが、教育に対する姿勢がやっぱり若干差があるかなと思って。それを5つにまとめたとしたら、民間と公立が連携して、高砂市の幼児教育、いわゆる就学前教育はこうであるということとのそれなりの、結局きちんとした共有化しないと駄目だと思うのですよね。そういう理念を持たないと費用対効果的な形でやっぱり人数が減ってくるから規模を縮小しましょう。あるいは財政の問題のために減らしましょうということだけだったら、ちょっと納得しにくい、納得しにくいというか結局寂しく思うので、僕は。やはり教育の在り方として、就学前教育の在り方としてどんなふうにしていくか。それは教育委員会の中で教育長以下、それなりのそこと話し合っていかなきゃならないことで、前からこども園を結局教育委員会からこども未来部のほうに持って行って、そこにするとき、教育の在り方に関しては教育委員会がいわゆるいろいろ助言してどうのこうのと言っていますけど、つついどうしても連携が反省としてうまくいってないんじゃないかというところがあるのですよ。民間じゃなしに教育委員会の思っている就学前教育の在り方と、そのこども未来部が持っている就学前教育に対する考えがどのぐらい合っているか。僕自身、全く僕自身だけの問題かも分かりませんが、こども未来部の理念、それなりの教育に対するこども園を管理してますけど、こちらから教育委員会のほうからどンドンどンドン、多分いっぱい言ってくれているんだと思いますが、それが僕はなかなか理解できていないかも分かりませんが、そこが懸念があって、そのときも教育委員会がいっぱい、いわゆる民間じゃなくて公立の中で移管したときには、ソフト的な形の教育の在り方と、ハードの面での施設充実していく形の予算をどンドンどンドンつけて、公立のそれぞれの教育の教材もいっぱいなかなかそろっていないのをそろえてあげてくださいどうのこうの言ったけど、なかなかお金がありません、どうも財政難でそれぞれのこども園に対しても予算がなかなかつかなくて、それぞれの公立のこども園の園長たちも結局やりたいと思ったこともなかなかできなくて、最終的には何か公立の分に関してはどの公立のこども園も同じような形の教育しかできていない。特色が出ない。いわゆるここにも書かれてあるように、民間だったらそれなりの特色ある就学前教育をいろいろやっている。それを評価して文書の中にも書かれて、民営化することによってその住民ニーズに対して民営化することによって得られるだろう。何で公立だったら得られなかったのかという大きな問題があるのだと思うのですよ。民間ができるのに何で公立でそういういわゆる学童保育みたいな形の協力の仕方とか、そんなんもなかなかできていなかったというのがありますからね。そ

ういうのを含めて大ざっぱに一言で言うと結局、民間と公立とのその在り方の位置づけとか、それと連携の仕方、高砂市全体としてこのアンテナとして結局これから高砂の就学前教育をどんなふうな形で推し進めていって連携を深めて、やはり高砂の教育は一体化になって進んでいるのだということをやっぱり全面に出して検討していかなきゃならないんじゃないかなと思って、公立をどんどん減らすんだったらね。これが教育長もこの前お話ししたときは、やはりそれが教育委員会の多分仕事だろうけど、それはやっぱりちょっと本当にやらなあかんなということは言っているんで、そこが非常に大事なところだと思うので、だからいろいろな諸般の事情を聞けば、それはそれなりに言われていることは分かりますし、だけでもやはりやらなきゃならないのはやっぱり住民に対してその子供を持っている保護者の方々に、高砂のやはり就学前教育の在り方、保育の仕方はどんな状態であるということ、やはり納得していただいて、本当に育てやすい地区だと、育てやすい地だということのアピールをどんどんしていかないと、実際に実績を示していかなあかんと思うので、これを機会にちょっと一回積極的にアクティブに動いたほうがいいのかないかなという気はしているのです。すごく若干やっぱり保護者にとっても何か分かりにくい状態になってしまっていて、僕らも努力しなきゃならないのだと思うのですが、そこが非常に歯がゆいところなのですから。

#### ○都倉達殊市長

ありがとうございます。今、山名委員のほうからこども園化についての中で、そういう民間でやっているような内容と公立の今の現状の中でのギャップといいますか、そういったことについて御意見がありましたけど、いかがでしょうか。

#### ○神尾信作教育委員

私も民間に委託して8つを5つに減らすという、公立をね。ということについては先ほどの説明にもあったように、今の現状、少子化だとか保護者のニーズへの対応と思えば、仕方がないなと思うのですが、ただ1番、2番に書いているのは今お話にあったように、その就学前施設、幼・保・小との連携が一番継続が難しいなと思うのですよね。それは民間がいいとか公立がいい、悪いとかそういうことではなくて、システム自体に違いがあるので、そこはいい、悪いではないと思うのですよね。よく言うその、幕の内弁当を食べるのか、フランス料理を食べるのか、イタリア料理を食べるのかみたいなね。その価値観とか、その比較できるものじゃないと思うのです。ただ、就学前施設と小学校の接続ということから言うと、公立はその教育要領、保育要領の一つの枠があって、その中で保育・教育をしていますから、当然それはそのまま小学校に行って学習指導要領に反映されていますから、継続はスムーズにいきますよね。でも、民間はそういうことではなくて、やっぱり先ほど山名委員がおっしゃったように、特色づくりをやっぱり、その枠がない分特色づくりできるという利点があるわけですから、いろいろな保育園・幼稚園・こども園でできないようなことをどんどんやってアピールして園児を受入れるということを当然するのは当たり前なことなので、ただ、そのやり方にもいろいろ問題があると思うのですが、ですからよしあしということじゃなくて、そういう一つの枠組み、教育要領・保育要領という枠組みがありますということと、もう一つは、月に一回園長・校長会というのを教育委員会でやっていますよね。そのときに公立の園長さん皆さん来られて、もちろん小学校の校長、中学校もおります。そのときに教育長さんなり担当者の方から、今情勢はこんなんですよとか、いろいろな課題はこんなんですよという説明が月に一回あって、課題の共有もできます。情報の共有もできます。ですが、そのことは月に一回やってそれを基にしてまた園長・校長が現場に戻って、それを基にして対策を立てたり次の施策に取り組むと。いわゆる一つの、その中でも継続性



ができていますよね。ですから、スムーズに行くという、素地がやっぱりそこにあると思うのですよ。ただ、そこには民間の方は、当然いろいろ伝え聞いてということで、全くないとは思わないのですけど、やっぱり一つのこういう同じ場でこういうことですよねという説明があったり、対話がある中で会があるかないか。そこで基盤ができていくかできていないかというのは非常に大きな差があると思うのですよね。実感として。ですから、そういう意味からいっても僕が一番懸念するのは、施設を民営化することはやむを得ないにしても、その辺のことを解消するような工夫・説明をしっかりとできないと、保護者の方は一番にそれを思うところですよ。ですから、そういう丁寧な説明というか、工夫・施策とかがないといけないかと。

あと、例えばもう一つは、北浜こども園が民営化された場合に、そこには公立がなくなるわけですよね。となると、全員が公立指向ではないにしても、当然公立の幼稚園に行きたい、こども園に行かせたい、そういう親御さんにとっては選択肢がやっぱり限られてくるようになりますかね。ほかの園は、今こども園なのでどこから来てもいいのですけども、一応自分の地域の近くに行かせると思うので、税金を払っている高砂市のところに行かせたいという思いがあって選べない。当然、全く選べない、壁があるわけじゃないのですけども、距離的なことを考えると選べないというのを思ったりして、その不安とかに応えるようなそういうことをしっかりとしていく中で、あと3年とか5年とか時間かかってたと思いますので、やっていただけたらなと思います。もう一点、こっちについては、こども園の建て替えよりも荒井幼稚園ですか。その3歳児教育を入れたり、こども園化する、そちらのほうを優先するというか、そちらをちょっと急いでいただいたほうがいいのかという思いもあります。

○都倉達殊市長

荒井保育園のこども園化のほうを急いだほうがいいのかと。

○神尾信作教育委員

そうです。以上です。

○都倉達殊市長

今、お二方の意見を踏まえて、教育長、何か。

○衣笠好一教育長

教育長です。山名委員さんおっしゃったのは確かに最もなことで、本当に幼児期の子供たちのその成長といいますか、いろいろな経験を積みながら育っていく時期、大切な時期だと思います。今日の議題は就学前の施設の在り方ということですが、それにつきましても必ず幼児期の教育の充実ということが欠かせない課題がついて回るといえますか、ついていると思いますので、教育部と健康こども部さんとの連携がまだ十分できていないんじゃないかという御指摘もありましたけど、連携は十分にしていると思っています。ただ、協働というのですか。協力して働く。そういう意味ではまだ不十分な部分もあるので、この今の計画といいますか、こういった形で進む中で、これまで以上にしっかりとしたその二つの部が協働して取り組んでいくということは求められているということは感じております。

それと、中でもいろいろと教育委員さんの御意見いただいて、教育部として、教育委員会としては、この保護者またはその子供の顔が見えるような議論をしていかなあかんと常々思っています。そういったことを抜きにして、ただ費用対効果という話も出ましたけど、それだけではなくてそれをやっていく中でやっぱり当然この中で、市の中で

の部同士の連携・協働、御指摘ありましたその民間も巻き込んだ形での民間と公立とのその連携というか、緊密な連携ですね。そういったことが今後はやっぱり大きな課題であると思いますので、半分以上の子供さんが民間の保育・教育施設で体験積んで成長しているわけですから、そこはもう欠かせない部分でもありますし、大きな課題だというふうには捉えています。

その中で、その量の確保ということももちろんですし、今ちょっと3歳児の話が出ましたけど、量の確保ということと、それからやっぱり質の向上というのがやっぱり一番今課題だというふうに思うので、質の向上の中でも大きく言えば指導者の資質を高めていくという。これが大事だというふうに思っています。そういう意味では、民間とか公立じゃなくても両方一緒になってやっていこうというそのことが大事。特にこの、もちろん健康こども部さん、それから教育部、特に教育委員会の指導主事がおりますので、その関わりがやっぱり求められているというふうに思っています。

それから、神尾先生から指摘ありました、その幼児期の教育と児童期の教育の接続、滑らかな接続という意味ではそれぞれの園長先生、校長先生の意識だけではなくて、体制を作っていくということが大事だと思いますので、この質の向上ということをもう抜きにしては、就学前の施設の在り方は考えられないと思いますので、そこが大きな課題としてしっかりとこれまで以上に取り組んで参りたいというふうには思っています。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。ほか。

○吉田美香教育委員

私はちょっと申し訳ないのですがけれども、公共施設全体最適化計画という中にやはり医療機関、病院とかですね。医療機関、教育機関というのは同じように考えてはいけないのではないかとこの考えを個人的に持っています。やはりこの今回こども園が半分民間になるよというときに、これから引越してこられて高砂で子育てしようと思う方、喜ばれるかなという、決してプラスのイメージはないと思うのです。例えば北浜に越そうかなと思って公立の小学校あるけれども、幼稚園、保育園は公立ないよという状況の場所になり得るのです。曾根まで行けばいいのですけれども、何かそういう意味でよほどそこをきちんと公立であれ民間であれ、高砂市の幼児教育というのはこういうところに力を入れてこういうことをちゃんとやっていますということがアピールできていないと、これは絶対にいけないことだと。こういうふうなやり方していきますと決まったのであれば、もうそこを、こども園化のときも感じたのです。保育園と幼稚園が一緒になるなんて、大丈夫なのだろうか。だけど、お互いに学び合っていて良いところをうまく生かしてということができたらと思うのです。ですから、多分民間と公立もそういうふうにお互いに学び合えれば、特色を持って子供に楽しいこと、こうやって深めるといいことなんだよというのを教えられるような教育、それから就学前のきちんとした幼・小・中と流れに乗ったちゃんとしたものというのを、両方お互いに学び合っているということは、健康こども部と教育部が一生懸命私立と公立と一緒に学べる場所というのを作っていかなくちゃいけないのかな。これは大変なお仕事なんだろうなと思います。

それと、ただ民間の場合は、保護者のニーズに応じてくださるという意味で、たくさん行かれていますのはよく分かるのですが、ある意味でお商売なので、潰れるわけにはいきませんから、してくださいと言うことに一生懸命応えてくださいます。ただ、保護者のニーズに沿うことがそのまま子供のためになるとは限らないのです。ですから、そのところをやっぱりちゃんと見極めて、本当にこれ子供のためにプラスなのだ

ろうかっていうことをよく考えながら、民営化したときに進めていっていただかないといけないのかなと思いますし、先ほど神尾先生もおっしゃっていたように、小学校との連携ですね。それはやはりかなり差があると。現場に行って子供たちと接してみて感じますので、そのところは一生懸命教育委員会のほうからも頑張らなきゃいけないのかなと感じています。とにかくこのことに関しては、5つに絞るということに関しては、これから一生懸命その一つになるように、民間と公立が一つになって、同じ発想で物事をやっていけるように努力をするということが一番のキーポイントかなと感じています。

それと、先ほど意見を言っていただきましたけれども、阿弥陀こども園の建て替えというのは安全・安心の面ではもう放っておけない状況だと思うのです。これはもう子供たち、通っている子供たちのプライドにも関わると思うのです。ちょっと外から遠目に見た感じでも。ですから、それが最優先なのだろうなどは思いますけれども、何とかこの、だからこっちはできませんとならないように、何とか工夫していただけないでしょうか。荒井のほうも。何か方法はないか。どれも急務だと思います。ただ、やっぱり安心・安全が一番なのはよく分かりますので、そのところは阿弥陀を何とか人が出る前に何とかとは思っています。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

○吉屋章教育委員

事前にお話させていただいているので、大体重複してしまうこともあるんですけど、どうしてもやっぱりこの民営化というか、今回数は少ないですけどそういう形にも、安易にこの最適化計画というこれを理由にした軸として、それをそういう理由を軸として持っていくのはどうかなと思っていたんですけど、致し方ないのですが、懸念材料とかいろいろ今おっしゃったようなことがあると思うんですけど、やっぱりメリットもあると思うのです。それはもうこっちの持っていく方で、今でも結構今の段階でもっとこれから民間が増えてくればもっと行政が指導して園同士に任せておくということじゃなくて、やっていかなければならないと思うのですが、今の数、公立と私立の数の中での連携というのは結構いろいろやっていて、お互いに行き来もあるし一緒に授業もやっているし、研修会なんかで私立のいいところ、公立がちゃんとやって私立の足りないところとか、お互いに補いながらここがいいな、あれがいいなという交流もできていますので、そういった今のこの流れをしっかりと、これはもう園同士でやっていくような状況ですけど、もっと行政も関わって一つの大きな高砂市の枠組みの中で私立も公立も、吉田先生、今言われましたけど一つのある程度の方針の中で、私立だから公立だからじゃなくて、これだけをきっちりと行政主導で作って行って、その中で特色を、私立のほうもだし、もちろん公立のほうも各園によっていろいろな特色出していったらいいと思うんですけど、やっぱりこの柱というものを一つ、私立公立関係なく作って行くという中でやっていかないと小学校の先生も困るし、子供の不公平感とか差が出てくると思うので、ただ、何回も言うようにこれから民間が増えていくに当たっては、これを園同士でやってくれと言ってもなかなか難しいので、もっと関わって行って行政主導でやっていかなければならないと。

それから、今回こういう形で民営化したりするに当たって、やっぱりもともとの一番の理由は都市再生計画、もちろんその園の運営の経費の削減とかね。その辺のことになってくると思うのです。これを全面的に全部にするのではなくて、こういう計画だから全国的な流れだからこういう形にしますというのではなくて、あくまでも民間の力も入れて高砂市の中で就学前保育、そういった教育の全体の質を上げるんだ。そのために民

間も入ってもらおうということ、そのためにやっていくのだというのを前面に打ち出していかないと、なかなか保護者のほうも見捨てられたとか、言い方悪いんですけどね。その地区によって不公平感が出たりするので。あくまでもこれはそういった高砂の財政のそういった問題は置いておいて、そういうところにも後々関わってくるけど、そうじゃなくて、あくまでも全体の質を上げるんだ。だからするんだという方法を前面にやっぱりPRする必要もあるんじゃないかな。進めていくに当たって、そう思います。

#### ○都倉達殊市長

ありがとうございます。4人の委員の方々がおっしゃられたことをやはり行政側としてもきちっと受け止めた中で、やはり今言われたように、基本はやはり子供たちの教育の質を上げるということだと思うのです。その質に関しましては、やはり公立、それと民間園、一緒になって問題意識の解決に向かっていくということが一番大切だと思います。それと、やはり今、民間園さんが特色を出そうという意欲を持っていろいろやられておられますので、ただ行政側、公立園も含めていいところはやはり取り入れながらやっていくということでもよろしいのでしょうか。やはり今、こども園化、特に荒井地区の問題につきましても、私のほうからも御説明させていただきましたが、荒井幼稚園につきましても、大変園の入園者数も減ってきている中で、この令和3年度をピークとしてやはりもう少し減ってくる可能性、将来的なことが想定されている中で、今この荒井保育園をこども園化することによっての対応の説明をさせていただきましたけど、そういったお考え、方向性につきましては、御意見何かございますでしょうか。

#### ○山名克典教育委員

荒井保育園そのものをいつからするかですけども、結局今の荒井幼稚園そのものの、確かに今の人数ではやはりちょっと子供の適正な人数とは言えないし、財政的にもすごく無駄が多過ぎて、実際もうちょっとここで現場の先生方の保育者の話としてもやっぱり3歳児保育をやって、そうすればやはり多分園児は増えるだろうという期待はしています。そうするとやはり、教育の在り方としても変わってくるということを言っているので、まず3歳児保育きちんとやっぱりそこで、荒井幼稚園でやっていくことをまずして、そうしたときに変な話ですけども、園の建物の問題とかしたときに、どちらをやはり、やっぱり親御さんはきれいな学校を選ぼうと、きれいな建物のところを選ぼうとすると、やはりそれなりのキャパがあるところへ結局3歳児預かりますという形をやると、幼稚園のほう意外と増えるかなという気はします。どこまで増えるかというのは開けてみないと分かりませんが、そうなったら保育園のほうの問題もやっぱりちょっとニーズとして変わってくるかなと思うし。建てられる、そっちが前提と分かるんですけど、ここで近隣の民間の緑丘でも今工事やっていますし、それで建物が建ったりすると実際この荒井幼稚園、荒井保育園、この進捗状況によっては結局人数的なものがガタンと落ちるんじゃないかなという懸念もね。荒井幼稚園のほうが増えるけども、保育園がひょっとしたらニーズが落ちるから園児の数が減るのかなという感じを僕は見通ししているんですけども、それ今、保育園のほうを駐車場整備されて建て替えという形のほうに場所的なものはどちらがいいのだろうかというのはスペースの問題でいろいろ考えられて、実際専門の方から考えていただいたらいいと思うんですけども、どっちにしろ最終的には公立としたら実際はもうすごくもったいなくてね。荒井の幼稚園をどうするのかというの聞いておきたいと思うのですが、あの幼稚園を学童保育なんかで使うのですかね。どうするのですか。先々の話ですけども、建物がものすごくもったいなくて、どうされるか分かりませんが、保育園のほうにこども園化したときどうされる。以前からあの建物建てるの反対していたので、設計上、この設計は絶対将来無駄になるからやめ

てくださいってずっと言ってきた記憶があるので、でも建ったらきれいなのはきれいなのですが、それは置いておいて、保育園そのものとしてどちらかにせよ、こども園化、公立の分が一つできるのはいいと思います。だからそれはもう僕らが検討することちゃうから、どちらでもいいから保育園と幼稚園が統合されたらいいと思いますけど。荒井幼稚園に関しては3歳児保育を来年度からでもやっていただいて、そしたらちょっと人数としてのね、在園の子供の数が変わってくるんじゃないかと思うので、また考え方も変わってくるかなと。でも、建物は建ててもらったらいいと思います。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。今の内容で何かほか。

○神尾信作教育委員

先ほどから出ている質の高い教育・保育を確保担保するということところで、全くそのとおりなのですけれども、そのためにはまずベースとしてやっぱり数は力といいますか、その園児の数がやっぱりある程度ないと、それはやっぱりなかなか特に小さい子供たちは学びも大事だけど遊びというところも非常に大事だと思うので、やっぱり集団である程度、グループ・集団ができるぐらいの組織、数がないと駄目だと思うのですね。そこ本当に大きなポイントかなと思います。僕、荒井幼稚園に年に1回はちょこっと行くことがあったのですが、本当にここ数年見る見る講堂に集まっている子供たちを見ると減ってきて、何か寂しいなというか、先生方も大変だろうなという思いをずっと感じていたので、やっぱりこれからは3歳児保育というのも教育も入れていただいて、数を少しでも増やしていくという方向に持って行っていただければいいなという気がします。

○都倉達殊市長

人数のお話されましたけど、この3ページのこの推移、令和6年、これはあくまでも推移という形でしかお示ししていませんけど、実際問題令和2年の2, 899という数字からすると、やはりこれだけの人数が減ってくる予想が出ておりますので、いずれにしても待機児童ゼロ云々じゃなくして、やはり教育の在り方が一番大切だと思っておりますし、今の荒井幼稚園、保育園の問題につきましても何か御意見をいただきたいと思えます。

○吉田美香教育委員

私も先ほど山名先生おっしゃったように、3歳児教育ができるようになれば荒井幼稚園は少し増えると思うのです。3歳児を家に置いておくことに不安を感じる保護者って結構多いのですね。3歳になったらほとんどみんなもうどこか行っているのに、うちだけ家に置いておいて大丈夫かな。とりあえずその3歳児教育があるということでこども園入れるとか、やっぱり3歳そこへ行ったら4歳、5歳も続けて行くじゃないですか。ですから、3歳児教育をまず荒井幼稚園のほうで始めていただければ、荒井幼稚園の人数というのは少し増えて安定はすると思うのですね。それでそうなるとその保育園のほうを認定こども園化してっていうのとも、関係はどうなるのかが私よく分からないのですけれども、どうなるのですか。それは。

○都倉達殊市長

今、荒井幼稚園のその園の入園者数の減、今3歳児を受入れることによって人数が増えるであろうというお話がありますので、実際これやってみないとどれぐらい増えるのかというのは分かりませんし、ただ、荒井保育園のこども園化については市としては進

めていきたいと考えておるところでございます。この配置図、市内の中で南部地域の中で、高砂こども園、荒井がこども園化されていないということで進めていこうとしておるところでございます。この5つの地域割りの中で市の公立としての考え方、それを今日、お示しもさせていただいたわけです。そういう中で、確かに荒井幼稚園の、あと一つ幼稚園が残っているわけでありまして、それを市として幼稚園を認定こども園化していくことによって、これで一応市内全域のこども園化ができるということで、幼稚園を廃止をしていくというような方向性を示すまでもやはり、スケジュールが少し必要になってまいりますので、もう少しお時間をいただいた中で幼稚園のことの結論的なものはお示しをしたいなと思っております。

#### ○山名克典教育委員

先ほどから言った荒井幼稚園と保育園が統合されて、荒井地区のいわゆる荒井こども園というのが、どちらの土地でするにせよできるということだと思いますけど、結局それまでの間の分として今、僕言ったのは、荒井幼稚園の今の状態を2年でも3年でも多分続いたとしたら、とてもじゃないが本当に先細りがひどくて、結局ここにも書いてありますように本当に今で二十何人とか結局すごく少なくて、子供らは伸び伸びしているとか伸び伸びしていますけど、やはり子供たちが少ないし、やはり預かる時間も短いし、やっぱりそこがやはり柔軟な対応でもっとできないのかなとか、幼稚園の中で。結局、今の幼稚園はその施設を使う。それなりのスタッフを使ってそれなりの公立のその先生方はやはりそれなりのレベルを保った保育、教育者であって、保育士の資格があってしている。そのものすごく力を持っているのに、すごく無駄なことをやっていると思うので、やはり今の施設を十分に何年間の間にせよどちらになるか分かりませんが、やはり有効利用するためには3歳児教育も、3歳児受入れることもあるし、先行的な形で本当は3歳児じゃなくても、建物別であっても二つで一緒にこども園ですというような形があって、荒井幼稚園のままでも何人か小さい子でも預かりましようかという形の、いわゆる3歳以下の子供ね。そんなんもあっても場所が二つあるけど一つの組織ですという形にしたら、荒井幼稚園の建物の中でいろいろなことをもっとできる範囲で、あのスペックの中でできることがあって、それで将来、統一化して一つの建物になったときまでのつなぎとして、住民のニーズに応じていけるような形、今の建物を利用していけるんじゃないかという、そんな案も僕はあってもいいのかなと思うんですけど。そこは一つ場所別でも一つの名前をして、共同でどちらもできるような形、どっち選んでもいいですよというような形があってもいいのかな。ここ何年かの間はね。

#### ○都倉達殊市長

教育長、今の山名委員の幼稚園のその内容的な内容の部分で、何か今のお話で何かありますか。

#### ○衣笠好一教育長

今、山名先生がおっしゃったことと、それからそのちょっと前に吉田委員さんが言われたその教育の質の部分のこと、吉田委員さんが言われたその保育者の、保護者のニーズに応えることが本当に子供のためになるのかなとしっかりと考えていかないといけないということを今まで聞かせていただいて、その言葉一つ一つを重く受け止めさせていただいていますけども、吉田委員が言われたように、その民間と公立はやっぱりその、民間が駄目という意識は私はありません。民間の保育園さん、こども園さんがやってはることで、私もよく案内いただいてあちこち行くことがありますが、保育者のニーズの必要な部分を担っているような形で取り組んでいただいている園もたくさんありま

すし、そこのお互いの良さを補いながらというふうに吉田委員さんおっしゃいましたけども、それをしっかりとやっていくという意味では行政も関わってというお話もありましたけど、そこがやっぱり一番の大事なところだと思うので、そこらあたりをしっかりと踏まえて、最初の話に戻りますけども、教育部と健康こども部が連携・協働というところがやっぱりそこに来るのかなというふうなことを感じています。

それから、荒井の保育園と幼稚園の関係で、幼稚園のほうに3歳児が受入れが進んだら、3歳児が増えるということでは園児数は増えるとは思いますが、保護者のそのニーズということは、時間外保育などのニーズも民間なんかは受入れているようなこともあるのを考えて、1号認定の方はちょっとそれはないのか知りませんが、そういうふうなこととかいろいろ考えたら、簡単にその3歳児導入したからとかいうことで幼稚園の形のままのものがどんどん増えていってということはあるのかなのか。それも分かりませんがね。どうなったか。そこを考えるとその荒井の幼稚園、しばらくの間の幼稚園、ただ荒井保育園のこども園化された荒井こども園の部分のその状況をしっかりと見極めていただきながら、今後、考えていく必要があるかなということが委員の皆さんのお考え聞きながら感じました。

#### ○山名克典教育委員

先ほど市長が言われたもう一つ気になるのが、いわゆる幼稚園と保育園を一つの、建物別やけど一つの組織としてもう荒井こども園という形でして運営するようなことが可能なかどうか。それはいかがですか。

#### ○衣笠好一教育長

今、山名委員さんおっしゃっているのは、その一つの複合施設として園長が1人でそういうことでの運営が可能かということですか。それは難しいような気がします。私、個人的には。それはきちっと保育園がこども園化されたら荒井こども園ですよ。そこと今あります荒井幼稚園というのはやっぱり別の施設としてそれぞれの役割を担いながら、連携するというか合同で何か実施するとかね。別々の運営というのは難しいかなと思います。

#### ○山名克典教育委員

施設の在り方で、結局その施設がどれだけ離れていたら結局一つの施設と認められるか、認められないかというのがあると思うのですよね。道一つ隔てとったら、こども園として何か所かあっても一つのこども園として認められるけど、そういう形で言っている。あれだけ離れとつてもいわゆるこども園化したとしたら、保育園、こども園化して、建物は別だけけど一つの、それなりのどちら選択してもいいですよというような形のね、そういうのがありかどうか。

#### ○都倉達殊市長

荒井幼稚園というものは幼稚園としての機能で、今私のほうから最後に説明最初にしたように、荒井保育園、保育園はこども園化することによって給食の提供もありますけど、幼稚園のほうは3歳児は入り切らない場合の人数の対応をするということを考えておまして、ですから、そのあくまでもその保育園のような給食の提供はあれですね。部長ね。できないという考えで受け止めていただきたいと。ちょっと補足あれば、部長。

#### ○福原裕子健康こども部長

すみません。山名委員がおっしゃるように、第1こども園、第2こども園みたいな考

え方ですかね。

○山名克典教育委員  
分園みたいな形。

○福原裕子健康こども部長

分園みたいな形ですよ。道、あれだけ広い道を挟んでしていますので、園長1人で両方を兼ねるとか、そういったことはまず無理だとは思いますが。やっぱり園の管理という意味では、相当施設は離れていますので、別の施設として捉えるのがいいのかと思っています。今言いましたように、施設自体が機能が違いますので、それを一緒に、本当にこども園としてするとしても別の園として捉えないといけないのかなと考えております。

○吉田美香教育委員

私、四、五年前にこの荒井の話ってもう出ていたと思うのですが、そのときに大学で豊中キャンパス、何とかキャンパスとかいう発想があるじゃないですか。そのキャンパスはキャンパスで学長ではないですけど誰か責任者がおられてみたいな発想で、大きい意味で荒井こども園というので、5歳児だけがこっちだとか、そういうようなこととすることができるのですかと聞いたときには、できないと言われたので、駄目なのかなと思っていたのですけれども、何かやり方によってはできそうな気もするのですけれどもね。

○山名克典教育委員

そこなのですよ。結局、できないという形で本当にパッと言われても困るので、検討していただきたいと思うのだけど、本当は実際には法律上あかんのかもしれませんよ。けども、今言ったように離れていたら別に本園のほうには園長で、片方には副園長でということであって、管理者がおってそれなりの役割分担をした形の中でのいわゆる今の制度としての保育所と結局幼稚園、その役割分担、それを求めた形として、制度としてこども園の在り方としてはその二つの機能を持った形でこども園にしましょうと言っているんだからね。何であかんのかということですね。解釈の仕方やと思ってるからね。僕は。それを絶対できませんというよりも、やっぱりあるかなと僕は思って、一回検討したらどうかな。建物が違うだけであって、結局本来のこども園の在り方って、教育の仕方の問題で保育施設、保育所と幼稚園と合体、結局それぞれのいいところを取り入れてその中で一つの建物の中でしましょうと言っているけど、一つの建物であるべきかどうかというのはやっぱり解釈の違いだと思うのですけどね。具体的なこと、いろいろなことがあって大変だと思うけど分かりませんけど。

○都倉達殊市長

ちょっと今の内容につきましては、ちょっと預からさせていただきます。

ほかありませんか。

それでは、先に進めさせていただきますが、またほかその他の中でもまた追加であれば聞かせてください。2番目のG I G Aスクール構想につきまして。

○衣笠好一教育長

今、市長が最初におっしゃった、令和4年度にその阿弥陀こども園の園舎の老朽化に



ついでに予算化も考えているのだという形で皆さんは一応合意いただけたと。それと、もう一つは、3歳児の話が出て結構議論盛り上がりましたが、荒井幼稚園の、幼稚園についてちょっといろいろ宿題ができましたけど、来年度の荒井幼稚園の3歳児の受入れについても進めていかせていただくということでもよろしいですかね。確認したくて。募集の関係がありますので。

○都倉達殊市長

よろしいでしょうか。わかりました。ありがとうございます。

それでは、2番目のGIGAスクール構想につきまして、資料の説明をお願いいたします。

○矢野仁之教育部学校教育室学校教育課長

学校教育課長の矢野です。

資料というのはないのですが、パワーポイントで。

それでは、始めさせていただきます。

失礼いたします。学校教育課長の矢野です。どうぞよろしくをお願いいたします。

GIGAスクール構想についてということでございますけれども、国のほうからも我が国150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくことが大切であるというふうに打ち出されております。本市におきましても、この方向性に基つき、子供たちの学びの保障をしまいたいと考えているところです。

これまでのICT機器の整備状況等について御説明申し上げます。一番上にありますように、平成2年9月、ベネッセのミライシード導入とあるのですが、これは子供たちが使うドリルソフト等ができるものでございます。これにより、児童生徒一人一人が自分の課題に合った問題を解くなど、そういったことができます。令和の日本型の学校教育でも言われておりますけれども、個別最適な学びというものの保障に資するものであるかなと考えております。また、学校では電子黒板も普通教室や特別教室棟に導入をしました。これにより、教師が事前に教科書を模造紙に写して大きな文字にするとか、そういったような作業を行いまして授業準備しておるのですが、こういったことも必要なくなったりするということで、授業の在り方が大きく変わりました。教師の負担軽減にもつながっていると言えるのではないかと思います。

それから、昨年度の2月には、教師用タブレットを配付、そして今年度4月から児童生徒用タブレットを配付し、5月中には全児童生徒の手に届けることができました。導入した機器の一覧でございますけれども、上はタブレットということで、このタブレットにつきましては360度回転可能ということで机の上に、この後にちょっとそういう画面出てきますけれども、机の上に画面を上にして置いてタッチ操作で学びを行うということもできます。下は充電保管庫というものでございますが、これは児童生徒の使った後、タブレットをまた次に備えて充電をするということで、教室内で保管できるということになっております。

それからあと、その他いろいろ整備していただいておりますものです。プロジェクターですとかそれから全普通教室や特別支援学級等に入れさせていただきました電子黒板が下でございます。QuattroPodMiniというものは、教師用タブレットとそれから電子黒板をつないでスムーズに授業を行えるようにするものでございます。

次に、タブレット等のICT機器を活用した授業形態ということで、じゃあこういった今、ICT機器を整備して行って、じゃあどういったことができるのかということでございますけれども、一番左にありますように、まず一斉学習ということで、主に

教師は授業の導入の場面、子供たちをひきつけていく場面ですが、それから授業の展開の場面でも使って、それからまた最後にまとめでこうですよということで、そういった場面にも使うということで、あらゆる場面で様々な使い方ができるということがあります。それから次に、個別学習Bというところですけども、これはもう個々の課題や状況に応じた使い方ということで、行うことができます。最後に共同学習ということで、これは児童生徒が共同で学び合い、話し合いを深めていくというような活動ができるものがございます。

また後でちょっと出てまいりますので、次に行かせていただきまして、授業でのタブレットの活用状況ということで、6月にアンケートを実施したものでございます。授業中にどの程度タブレットを活用していますか。これは教師に聞いたものでございます。現時点では、小学校のほうが活用の頻度は高いと言えます。このアンケートには校長ですとか教頭ですとか管理職も含まれておりますので、管理職は授業では使っていないということでございますので、この数字よりももう少し実際はよく現場で使っているというようなことが考えられますよと担当からは聞いております。使用していないと回答した者は、小学校では20%、中学校では43%ということで、今後この数字がどんどん減っていったらしっかりと活用の頻度を高めていきたいと考えているところです。

水色のものがほぼ毎時間使っていると回答した分です。オレンジ色が1日に3時間以上使っていますよと回答した分です。灰色部分が1日に1から3時間、この黄色が1日1時間未満ということで、最後に濃い青色が使用していないという数字でございます。ですので、小学校のほうが活用していますよという先生が多いということが言えます。授業でのタブレット活用状況2ということでございますが、小学校では様々な教科、領域において活用している。割といろいろ使っているということで、ちょっとこれも見えづらいのですけども、水色、国語、オレンジ、社会、灰色が算数・数学、黄色、理科・生活、その横の青が音楽、黄緑が図工・美術、それから青いのが体育、茶色が技術・家庭、そしてそのネズミ色の濃いのが英語、それから黄土色、道徳、紺色が総合的な学習の時間、それから濃い緑色が学活、それから習字、食育と書いてあるのですけども、小学校ではいろいろ使われている。中学校におきましては、道徳科ですとか総合的な学習の時間などで使っていると答えたものが多いということが言えます。本当、小学校では国語、社会、算数、理科、主要教科結構使っているなというところが見てとれます。

中学校におきましても、やはり主要教科での活用頻度が高いのかな、ただ、先ほども申しましたけれども、総合的な学習の時間が本当に多いのですけれども、調べ学習に使わせたいと、こういうふうに考えている先生方が多いのかなというふうに今のところ見てとれます。

次に、授業中どのような場面でタブレットを活用していますかという問いでございます。水色が教師が課題を提示する場面、オレンジ色がドリルノート等を使った個に応じた学習、それから灰色、インターネットを使った調べ学習、黄色が実験や観察等、それから濃い青色が子供の活動や作品などを提示する学習、黄緑色がタブレットを持ち帰りによる家庭学習、濃い青が考えや作品の提示・交換しての話し合い学習、そして最後の茶色いところがMeet等を使った外部の学校や講師との交流学习というふうになっておりますが、一斉学習ですとか個別学習における活用頻度が高いということが言えます。それから、ドリルソフトの活用による個別学習の割合も高くなっており、ミライシードが全児童生徒に配付完了したことにより、活用頻度が上がってきているのかなと考えております。今後は、共同学習における活用率、話し合いの際にどう使うかというようなことも研究してまいりまして、効果的な活用について進めていく必要があると考えております。

授業でのタブレット活用状況4ということなのですけれども、ミライシード、個別学習のドリルソフトですね。その活用状況、4月を1とした割合ということで、これ200という部分になっているのですけど、2倍という意味ではございませんで、本当に200倍というふうになっております。それは児童生徒がどんどんどんどん使うようになってきていると言えます。それと、ミライシードによるドリル演習の様子という写真があるのですけれども、子供たちが実際画面を触ってドリル学習をしております。それから、その横がオフリングというソフトを使って、先生が子供たちの意見をまとめているというような様子です。この後動画も出てまいりますので、ちょっとこのあたりの写真、進めさせていただきませう。これはちょっと同様の画面にはあまり出てこないの御説明申し上げますと、左上が電子黒板とタブレットを使って全校朝会をしている様子ということで、今、コロナ禍におきましてなかなか朝会というのがしづらい状況ですので、学校のほうで工夫してこういった活用方法で朝会を行っております。その横はタブレットを使って各教室で職員朝会をしているということで、これも職員室に集まるのではなくて、こういった教室の場所で行って、紙の節約にもなりますので、こういったこともしております。それから、オンラインで去年度から実施しております謡曲高砂学習は全16小中学校で行って来ておって、去年はちょっと無理かなというところもあったのですけれども、やり方を工夫してやっぱり継続していこうということで、松本先生にも御協力をいただきまして、こういった活用法で授業を進めているところです。最後、6年生を送る会をオンラインで実施している様子ということでもあります。

この後、ちょっと動画を見ていただきたいなと思っております。時間もう少しよろしいですか。

#### (動画視聴)

長くなってしまいました申し訳ございませんでした。

以上です。活用の状況の説明を終わらせていただきます。

#### ○都倉達殊市長

説明ありがとうございました。この今のGIGAスクール構想について、何か御意見ございましたら。感想でもいいです。

#### ○吉屋章教育委員

先生の教職員の方のその、今はタブレットとかああいった限られたツールですけれども、あれがやっぱり使えない先生がまだいると思うので、まだ始まってからそんなに期間がたっていないということもあるのですけど、そこにもっと力を入れるべきじゃないかなと私、ちょっと思うのですけども、子供に対しての今の指導員みたいな方、子供に教えるということなんですけど、もっと先生に教える、この民間企業からそういう派遣をして先生のスキルアップみたいなものをどんどんどんどんもう今から図っていったほうがいいんじゃないかなと。先生が全部使えるようになったら、子供は早いのですから、大人より。割とこう高砂市の場合、これは私のイメージだけかもしれませんが、ずっと教育のほうにも力入れているのですけれども、もうそんなにスピード感があってどんどんどんどんほかにも先駆けてやっていくというよりも、いろいろ吟味しながら、いいところを見ながら、これは一長一短でいいところもあるし予算の面もあるから、何もかもパッパ、パッパできないところもあるのでしょうか、これに関しては今の時点でも全国で見ても大分差があると思うのですね。早目に普及しているところ、使っているもの、やっているもの、そのレベルも大分差があると思うのです。これからどんどんどんどんもっと今はああいった単純なツールとかでこんなことができるだろうか。こんなこともできるな

ということで使い方を覚えたり、教師と生徒がね、これがどんどんどんどんもっと複雑ないろいろなツールがこれから出てくるのも目に見えていますし、それを学校にどんどん取り入れていくというのも、これも目に見えていますし、そんな中で、やっぱりこういうICT機器を入れることによって、今も説明ありましたが、子供の教育の幅というか、そういう処理のスピードとか、そういうものも大きな違いが出てきた中に、ゆっくりゆっくりぼちぼちやっているところの市町村、学校等、先進的にもうただただそういった指導員、教師のほうの質を高めてどんどんどんどん取り入れているところと、すごい子供に対する教育とかに差が出てくると思うのです。だから今、始まったところで先生も忙しいと思うのですけどもね。これが覚えることによって先生の労力の負担軽減にもつながりますので、ちょっとどこまでできるかあれですけど、行政のほうでそういうもうちょっと教師のスキルアップみたいなものをちょっと力入れたらどうかな。今から。でないと、差が出ると思うのです。

○都倉達殊市長

その点につきまして教育長、何かありますか。

○衣笠好一教育長

全くおっしゃるとおりで、このGIGAスクール構想の形が出たときに、もう既に2年ぐらい前から研修はやっております。ただ、一気にこのコロナの関係でその1人1台タブレット端末を配付して学習するということになりましたので、その対応についてのことである程度その先生方の指導力の差というのはあるのは事実ですので、ここをしっかりとやっぱりきちっと子供に効果的に指導できるような形というのは、今後も積極的に進めていきたいというふうには思っています。

○都倉達殊市長

今、吉屋委員のほうからお話ありましたスキルアップについても、学校現場でもスキルアップを教員の方々にしていただくのも当然なのですが、やはり子供たちがこの前現場見に行きましたら、楽しいなと子供たちが言っていました。それは大変いいことだと思うし、またこれから民間のほうもプログラミング教育とかそういった面でもどんどん飛躍的に進めていく方向にありますので、授業だけではなく家庭学習の中でもやはりそういった場面がこれから増えるのではないかなと思います。時代の流れで私たちの時代、そういったものはなかったですけど、やはりこれから社会に出ていく上では、やはりそういうタブレットないしはそういうコンピューターに慣れ親しむというのは、これからの教育の一つのツールとして大変重要になってくるのではないかなと思っています。ほか。

○神尾信作教育委員

二つ、短期的な課題と長期的な課題ということで二つ課題があると思っていますのですが、誤解を恐れずに言いますと、短期的な課題ということではどうしてもその使用率、先ほどの撮っていただいたビデオもそうなのですが、使用率とか費用対効果とか、そういうところでどうしても目が行ってしまいがちなのですが、今、市長さんおっしゃったように、ツールであったり、一つの目的であって使用することを目的になって一つのツールだということをやったり押さえておかないと、どうしてもそちらのほうの使用率が上がった、下がった。確かに低いのですよね。今の高砂の現状で、小学校が20%しか使っていない。中学校が40%しか使っていない。確かに我々の期待する値からすると低いとは思いますが、でもそれにはそれなりの多分理由があるだろう

から、それをじゃあどうするかということを考えるほうがもっと大事なのかなど。なぜ使っていないのだというところの、それは研修が足りないのか、それとも意識が足りないのか、いろいろなことが複合的にあると思うのですけれども、ただその数字だけに目をとられてしまうと、ちょっと誤ってしまうのかなという思いがあるので、その辺は誤解を恐れずにいうと、できることを着実にやっていただいで、特に教育でよく言うフェイクと流行という言葉をよく使いますが、今はこのGIGAスクール構想というのはまさしく流行なのですけども、当然絶対的なもの、不易なものになるのは目に見えてわかっているわけですから、そういう意味では長期的なまなざしを持ってやっていく。着実にやっていくということが必要かなと。

もう一つは、先ほど矢野課長が最初におっしゃった、このGIGAスクール構想のポイントは、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTとのベストミックスということを象徴していると思うのですよね。ただ、ICT、GIGAスクール構想、ここにばっかりどうしても目新しいし流行だから目が行きがちなのだけでも、ベストミックス、今までの教師の実践もそこに入れてという部分をやっぱりしっかり確保しておかないといけないのかなという、一つの思いがあります。もう一つの長期的な視点から言うと、ずっとマンパワーだとかいろいろな人材の確保ずっと市長さんをお願いしていて、それはお金のかかることなので、また同じようなことになってしまって申し訳ないのですけども、先ほどのICT支援員、これは本当に現場でも助かっているし、先ほどの動画を見させていただいても、本当に教師と同等、ひょっとしたら同等以上の働きをしていただける。ですからもう、絶対確保していただきたいということと、あとは先ほども吉屋さんが言われた研修するにも、やっぱり自分が研修に行くためにはそれをサポートする、そういうスタッフが必要になってくる。そこでやっぱり人材というお金がかかるかもしれないし、あともう一つその、人材という意味で広げていくと、要はその教育委員会にこのGIGAスクール構想を扱っている担当者の指導主事が多分1人かなと思ったりするのですけども、そこにもうちょっとスタッフを入れられないかなとか、高砂市のGIGAスクール構想を担当するパソコンを入れるどうのこうのの担当者にもう少し人材がいけないのかなとか、あと先ほどふと思ったのですけども、先ほどの話で教育部と健康こども部が連携してみたいな話がありましたよね。それなら、教育部とパソコンに詳しい市の職員の方がうまくリンクできないのかなとか。そういうことによってちょっとまたそういう負担の軽減だったり、もっと早く進めるとか、そういうことができないのかなとか。そういう何かいろいろな工夫とかをしてうまくやっていけば、今確かに遅れているかもしれないのですけども、着実にステップを伸ばして行って、しっかりした土台を作ってこれから先の未来の教育にしっかり向き合えないのかなということを思ったりしました。

以上です。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

○山名克典教育委員

実際今の現状と理想とそのギャップがあって、僕の頭の中でもすごくギャップがあるのですけども、結局今の現状としては機材が入りだしたとか、ハードが入って本当にまさにもう触りだしたところで、実際には、だけどももともとからのこの入れたら、タブレットこういうのに入れていたら多分一気に進んで、結局その利用も進んだとしたら、それなりの理想としてどんな形があるのかということで、双方向的な形で結局この前の教育委員会でも言ったのですけど、結局双方向でそれを在宅でもできるような形という

のが、将来的なものとしてあれば、例えば結局今回なんで進んだかといったら、要は学校がコロナのために閉まったと。そうしたときペーパー運んだりなんかしよったら、それなりの反省として4年間いろいろなこと、一気にタブレット配備して、学校なり全部Wi-Fi設備整ってできた。そしたらそれをうまく利用しようと今、本当に第一歩始まったところなので、いろいろなことで試行錯誤されてなかなか進まない。それで指導員とかそんなもあってしていかなあかんし、先生方のスキルアップしなければいけない、いろいろなことの本当に過渡期だと思うのですが、理想ついつい言ってしまって、結局そしたら夏休みのときなんか実際どんな、在宅で家庭学習にそういうような今の状態利用できないのだからとそこまで先走ってしまってこの前の教育委員会のときに言ってしまって、課長に「できてる、できる」って言ったらできないって言われて。まだ今はね。結局そういうのでもしも例えば話としては、もしもこれ夏休み終わったらコロナがすごく大流行してて、もう一回9月からは学校なしですよとなったとき、この今の制度これをきちんとそろえてもらって設備が整ってきたら、これをいかに早急に利用できるような体制ができるのかどうか。そこがやっぱりすごく、やっぱりもしも9月から休校をもう一回閉めましようとかいって、ロックダウンとかなったりしたら、多分ないとは希望しますが、あったらこれ、せっかくこれだけそろっているのに、何やっとなんねんということになってしまうことになるからね。やはり今の現状としてはなかなか進んでないのはすごく分かるのですよ。指導員がおらなきゃなかなか進まない現状ってあるのは事実やけど、やっぱり理想としてはもうちょっとそれなりのもっとテンポよく進んで、スピーディーにやっぱりやっていけたらいいなという、今、やっていることは十分分かって、みんな、僕もそんなに、僕も全然触りませんのでほとんど触らないので、なかなか難しくて頭の中で考えていろいろやっているのですが、それでそのことと、思ったのは、一つどうしても全てが全て今言われたように利用頻度の問題もありますけど、実際にはこれはしよせんは全てそれだけでノーペーパー、いわゆる紙なしでできるようになるようなことはないので、実際に今みたいにいわゆるそれなりのタブレットを置いてって、なおかつペーパーしながら紙に書いていろいろとしていく、やっぱり紙がどうしてもいると。実際、国語今出ませんでしたけど、筆順とかこんなんして書き順とかしたら、それは確かにこのタブレットすごくいいと思うので、今の学校の教育の中でずっと教育気になっていたんで、もう学校の先生が筆順がどこまでできるのだろうということも一つの僕も昔から思っていることなので、そしたら筆順なんかすごくきれいに分かるし、いわゆるそうすれば略字が全部見えてくるという感じの、そういうようなのもいろいろあるので、そういうようなのはすごいタブレットやったら。一つの例としてあるのですが、そういうのがいいなと思うのやけど、実際はやっぱり字を書かなきゃならないだろうというような形はしていかなきゃ。全てを期待するわけじゃないということ。それともう一つ大事なのが、タブレット使ったこうしたら、通信でこれだけやったら学力が上がるということは絶対あり得ないので、ただ単に一つの先ほど言ったようにツールであって、結局これで使ったら学力上がるって誰でもやるんであって、実際はこれはただ単なるいわゆる今後の生活の中でしていかなきゃならないし、やはりちょっとツールとして利用すればいわゆる効率も上がるし分かりやすい、理解しやすいという、それこそもういろいろ含めていけるけど、必ずしも学力につながる、向上には、使い方ではなるかも分からへんけど、短絡的には考えることはないんやけど、考えてしまう人がおっちは困るなという。そういうところを懸念するので、実際には戻ればもう。それで今言われた市内でどんなふうな形で進めるか実際には教育委員会の中で結局触れるそれなりの知識持っている人は少ないし、そして学校の中それぞれおる方々がやっぱりある程度の本当にワンチームとして一つのチーム作って、結局それが指導的役割を果たして結局率先していわゆる指導していくような形のチームをやっぱり作り上げてしないと

それぞれがもう学校の中で指導員来てもらってどうのこうの言っているよりも、やはり何か組織立てて市が教育委員会が一つチーム作りますという形で、そこにはやっぱりもっと先ほど言ったような指導員の人たちも入れて結局して、総合的な市全体としての立場としてやっぱり、全体としてのことで何かやっついこうと考えたほうが、今後の先ほど言った学校休校とかなったときの対応の仕方に関しても、全市的な対応がしやすくなるから、危機意識持って早急にそういうのを考えてもいいんじゃないか。いわゆる市全体として市長、音頭とっていただいてやってくれたほうがええかなという気がしますけど。よろしくお願いします。

○都倉達殊市長

今、山名委員が言われたように、やはり確かにツールなのですが、やはりほかの教育委員会、県外含めてですけど、どういったその今、進捗状況なのかという情報収集をしながら、やはり自分のところの今のやっついっている状況との比較、分析をしていただいて、やはり高砂市が他市に負けない魅力あるGIGAスクール構想を教育委員会を中心としてまた横串じゃないですけど、うちのそういう部署も協力しながらやっついきたいと思っております。

ほか。

○吉田美香教育委員

最初にあれだけのものをそろえていただけたことを本当に感謝しております。高砂市の先生たち、よその市町の方とちらちらお話していても、先生方結構頑張ってるよ使ってくださっていると思うんですね。ただ、やっぱりちょっと使える人がそばにいただけで全然学びが違おうと思いますので、今、4校に1人という指導員つけるという発想でやっていますけれども、そういう人を探すというのも必要なのかなと思うのです。ボランティアでも何でも、そういうことで協力してくれる人というのを市内から探していくとか、コロナのワクチンの受付でも高校生なんか手伝ってやっついっているようなところありましたよね。知識のある人、協力できる人を探してくるのも一つの方法かなと思います。そうして一気に進めないで、まずみんなが使えるようになってこそ、そのGIGAスクール構想の一番の目的というのは、その児童生徒の力もそうですけど、教員の資質能力を最大限に引き出すということがポイントなので、そのツールとして使ってくださいということなので、その資質能力を引き出すところまで使いこなせないとなかなか価値が出てこないと思うので、そこを何か考えなきゃいけないというのが一つと、あとはもうその持ち帰るようになると、情報モラルとかセキュリティとか、この辺をよっぽどしっかりしないと、結構それでのトラブルというのも全国的に起きていることなので、そここのところもやはり大事だと思いますし、もう一つ怖いのは、大人がリモートで仕事をしだしたために、その視力とか視力から来る頭痛や吐き気、そういう病気がすごく増えていますよね。やっぱり子供たちも多分そうだと思うのですよ。それを一生懸命見ていじりだすと。ですから、その辺の健康面も少し考えて、視力検査をしっかりやるとか、いろいろなことも体制整えなきゃいけないのかななんていうことも感じています。

○都倉達殊市長

そうですね。ありがとうございます。やっぱり新しいことをやっついいくといろいろな問題を抱える場合がありますし、そのやはり状況分析をしながら対応策をやはり市としても考えていただきたいと思います。ありがとうございます。

○吉屋章教育委員

先ほどの吉田先生の補足というか、僕の思うところで、こういう新しいことを進めていくに当たって、やっぱり学校だけとか行政と学校だけではなかなか進みも遅いし、今、おっしゃったようにその外部から、外部というのは一般企業とかそんな大げさなことじゃなくて、もう地域にその得意な人とかある程度できる人がいると思うので、そういう方もどんどん巻き込んで、コミュニティ・スクールなんかもそうなのですが、今日はちょっと議題が違うのでその辺の話は違うのですが、それも関連するところがあって、もっと地域と学校、行政、学校だけで全部抱え込むんじゃなくて、地域、それから保護者、先ほどのセキュリティの問題とか、子供の目とか健康の問題、これはやっぱり家庭で管理すべきことやと思うので、これも学校のほうで指導するのはもちろんそれもあんねんけども、家の家庭のほうの教育とか、家庭と学校、学校と地域、地域と家庭、もうそのつながりというのをやっぱりもっと強化していかないと、こういうようななかなか新しいことは進むスピードが遅いと思うのですよね。だから、コミュニティ・スクールの件に関しても、このICTに関しても、これスピードがいることやと思うのです。中には新しいことを取り入れるに当たって、ゆっくりぼちぼちとスタートが遅れようが道中の歩みが遅かろうと、ここに追いつけば別にほかと差がないということもいろいろあるのです。そういうことはほか見ながら、参考にしながらやったらいいと思うのです。これはもう遅れるとこっちも進んでいくからゴールが、もうどンドン遅れて、ほかのところができるのに高砂はこれが遅れている、できないとかね。地域との関係も今のうちなら地域との関係性が構築できるけども、もうだんだん子供会もなくなり、そういういろいろな地域の力がだんだん年々弱くなっているところに、今からやっておけば何とかなるものを、これ5年、10年後にやろうとしてもできないと思います。なんせスピードを持ってせなあかんことというのがちょっとゆっくりし過ぎかなと思うところがちょっとあるので、そのスピード感というか、地域を巻き込んでというところちょっと考えていただきたいと思います。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

○衣笠好一教育長

貴重な御意見いただきましてありがとうございます。全てどの委員さんももっともな御意見だというふうに受け止めております。特に活用についてはやっぱり効果的な活用ということは、教師がしっかりとそれを使えるように。吉田委員さん言われたように、正しく使えるようにということが大事かなと。モラルも含めまして。そういったことをきちっと受け止めていかなければならないというふうに感じました。また、健康面の配慮部分がその中に入る効果的な部分に入るというふうな、国のほうは今ちょっと分からないですけど、以前、そのGIGAスクール構想がでたときには1日一、二時間程度使いなさいという、あまりにも毎日使うというのは健康面もそうだし、効果的に使うというのはいつも使うということじゃなくて、その一つのツールとして使えることですので、その辺を履き違えないように、神尾先生のほうからお話もありましたけど、その辺はしっかりと留意して取り組んで参りたいと思います。

それから、外部、地域とともに、またはモラルの面から家庭とともにというのが大事なことだと思いますので、吉田委員さんが言われたようにスピード感を持ってその辺も、よそと比べて負けないようにという意識をあまり持ち過ぎるのもどうかと思いますが、遅れたら駄目だと。高砂の子供たちが不利益な状況でなかなかこういった形のタブレットの使い方が遅れてしまっているとか、効果的に使わないためにその理解が十分できて



いないとかいうことが絶対ないような形というのは、しっかりとそういうことがないように努めていきたいというふうに思っています。しっかりとそのICTの機器を活用する場合のメリットとデメリットにも留意しながら、スピード感持って対応していきたいというふうに思っています。よろしく願いいたします。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

それでは、3番目ということで、その他ということで何かございましたら。よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、本日予定をしておりました議事は終わりたいと思いません。どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。初めに御議論いただきました就学前施設のあり方につきましては、まだまだ御意見があらうかと思えます。秋以降に予定しております次回の総合教育会議の中でも、引き続きの議題とさせていただくことを検討させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

閉会といたしまして、本日の議題は全てこれで終了させていただいております。

これもちまして、令和3年度第1回高砂市総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。